

「ル・コルビュジエの建築と都市計画」の世界遺産への推薦について

平成 19 年 12 月
文化庁文化財部記念物課

1. 現況

- (1) フランス政府等各国共同で進める「ル・コルビュジエの建築と都市計画」の構成資産のひとつとしての国立西洋美術館本館の世界遺産登録については、4月20日、7月20日、9月21日の文化審議会文化財分科会において、世界文化遺産特別委員会での審議の状況を報告している。
- (2) 9月21日の文化審議会文化財分科会においては、フランス等との共同推薦を行う方向で、9月14日開催世界遺産条約関係省庁連絡会議を経て、「国立西洋美術館本館」の世界遺産暫定一覧表への掲載及び推薦書（暫定版）を提出したこと、さらにその後に重要文化財（建造物）への指定手続きを文化庁において進めることについて基本的に了承いただいた。
- (3) なお、重要文化財（建造物）の指定については、11月16日の文化審議会文化財分科会に諮問し、12月7日に答申をいただき、年内にも官報告示が行われる見込みである。
- (4) 現在のところ、「ル・コルビュジエの建築と都市計画」の世界遺産の推薦に関しては、フランスを含む関係各国において了承を得られる見込みであり、我が国としても、「国立西洋美術館（本館）」を構成資産の一つとする「ル・コルビュジエの建築と都市計画」について、フランス等関係国と共同で世界遺産に推薦することとしたい。
- (5) 今後、重要文化財（建造物）の指定・告示を待って、年明け1月上旬にも世界遺産条約関係省庁連絡会議を開催し、その了承を経た上で、1月中にフランス政府においてとりまとめて推薦書の提出を行うこととしたい。

※ なお、「ル・コルビュジエの建築と都市計画」の構成資産としての国立西洋美術館本館については、フランス政府より、本件については建物のオリジナルの名称を用いる原則であるため、「国立西洋美術館」としたい旨の要請があった。しかしながら、日本側より、コルビュジエ設計外の建築物との区別が必要であることを説明の上協議した結果「国立西洋美術館（本館）」とすることで合意に至っており、今後、本件に関してはこの表示を用いることとしたい。

2. 日程（案）

平成 19 年

- 9 月 14 日 世界遺産条約関係省庁連絡会議（国立西洋美術館本館の世界遺産暫定一覧表への掲載及び仮推薦書提出について了承）
→ 国立西洋美術館本館の世界遺産暫定一覧表への掲載及び推薦書（暫定版）提出
 - 11 月 16 日 文化審議会文化財分科会（重要文化財（建造物）指定につき諮問）
 - 11 月 22 日 パリ・ユネスコ大使級会合（推薦書（完成版）提出の段取り等について協議）
 - 12 月 7 日 文化審議会文化財分科会（重要文化財（建造物）指定につき答申、「ル・コルビュジエの建築と都市計画」の世界遺産への推薦につき了承）
 - 12 月 18 日 文化審議会文化財分科会世界文化遺産特別委員会（「ル・コルビュジエの建築と都市計画」の世界遺産への推薦につき了承）
- 年 内 重要文化財（建造物）指定、官報告示

平成 20 年

- 1 月上旬 世界遺産条約関係省庁連絡会議（世界遺産推薦について了承）
- 2 月 1 日まで 推薦書（完成版）提出（フランス政府がとりまとめてユネスコ世界遺産センターへ提出）
- 夏～秋頃 国際記念物遺跡会議（イコモス）による現地調査

平成 21 年

- 6～7 月頃 世界遺産委員会において、世界遺産一覧表への記載の可否につき審議

「ル・コルビュジェの建築と都市計画」の世界遺産推薦について

1. 名 称

ル・コルビュジェの建築と都市計画

(L' œuvre architecturale et urbaine de Le Corbusier)

2. 概 要

ル・コルビュジェ (Le Corbusier, 1887～1965) は、パリを拠点に活躍した建築家・都市計画家。建築・都市計画のみならず絵画、彫刻、家具などにも取り組み、小住宅から国連ビルの原案まで幅広い創作活動を展開した。合理的、機能的で明晰なデザイン原理を絵画、建築、都市等において追求し、20世紀の建築、都市計画に大きな影響を与えた。本推薦は、世界各地に所在する彼の建築・都市計画作品のうち、7カ国に所在する23の資産について、一括して世界遺産に登録しようとするものである。

3. 遺産の種別

文化遺産 記念工作物、建造物群

4. 構成資産

別紙参照

5. 「ル・コルビュジェの建築と都市計画」の文化遺産の価値

以下に示すとおり、本資産は世界遺産の登録基準の i)、ii)、vi) の観点から評価が可能である。

i) ル・コルビュジェの建築と都市計画は、人間の創造的才能を示す傑作である。

ル・コルビュジェの作品群は、20世紀の新たな問題を探り、これに対する前例の無い答えを見出したものである。彼の比類無き創意は住宅から都市計画まで幅広く見られ、形態、空間、色彩のみならず、技法やそこでどのように生活するかといった面にも現れている。彼の作品群は、その独創的な創造物であるに留まらず、世界中の建築と都市計画が採用する解決策を先取りしたものである。

ii) ル・コルビュジェの建築と都市計画は、建築と都市計画の発展に重大な影響を与えたある期間を物語るものである。

ル・コルビュジェの作品群は、「近代建築運動」と呼ばれる20世紀における建築と都市計画の主流をなす手法の、誕生と発展を物語るものである。この運動の元、世界中の都市景観がその形態、材料、技術の各側面において大きく変容した。ル・コルビュジェは、20世紀初頭から1960年代半ばまでこの運動にきわめて重要な貢献をただけでなく、その死後も著書等を通じて影響を与え続けている。

vi) ル・コルビュジェの建築と都市計画は、顕著な普遍的価値を有する思想、芸術的作品と関連がある。

ル・コルビュジェの作品群は、20世紀を特徴づけ、本質的な普遍性を有する近代主義に直接的な関連性がある。インターナショナルスタイルと機能主義を含むこの思想は、20世紀の建築や都市に大きな影響を与え、その居住環境や建築・都市空間についての人々の思考様式を一変させ、今日でも全ての建築家や都市計画家が共有する文化的な土台をなしている。

「ル・コルビュジエの建築と都市計画」推薦予定資産一覧

区分	建築物の名称	所在国	設計完了年
アトリエ	ギエット邸	ベルギー	1926
	クック邸	フランス	1926
個人邸宅	ジャンヌレ邸	スイス	1912
	シュウォヴ邸	スイス	1916
	ラ・ロッシュ＝ジャンヌレ邸	フランス	1923
	レマン湖畔の小さな家	スイス	1923
	サヴォア邸	フランス	1928
	クルチェット邸	アルゼンチン	1949
	ジャウル邸	フランス	1951
規格住宅	救世軍人民院	フランス	1924
	ヴァイセンホフ・ジードルングの住宅	ドイツ	1927
	カップ・マルタンの小屋	フランス	1951
集合住宅	救世軍難民院	フランス	1929
	イムーブル・クラルテ	スイス	1930
	スイス学生会館	フランス	1930
	ナンジュセール・エ・コリ通りのアパート	フランス	1931
	マルセイユのユニテ	フランス	1945
宗教建築	ロンシャンの礼拝堂	フランス	1950
	ラ・トゥーレットの修道院	フランス	1953
大型建築	デュヴァルの織物工場	フランス	1946
都市計画	チャンディガールの建築物群	インド	1951
	フィルミニの建築物群	フランス	1953 ～1965
公共建築	国立西洋美術館（本館）	日本	1957

国立西洋美術館本館について

1. 概要

国立西洋美術館本館は、日本に所在する唯一のル・コルビュジエ設計による建築である。

実業家・松方幸次郎の美術品コレクション（絵画、彫刻等）のうち、パリに保管され、第二次世界大戦後にフランス政府に押収されたものについては、1953年、その大半が日本国政府へ寄贈されることとなった。寄贈に当たっては、西洋美術の変遷が学術的に日本人々に伝わるような新美術館の建設が条件とされ、国立西洋美術館本館は、この条件を満たすために日本国政府が上野恩賜公園内に建設したものである。

設計者にはル・コルビュジエが選ばれ、建設にあたっては、ル・コルビュジエの下で学んだ前川國男、坂倉準三、吉阪隆正が設計補助ならびに現場監理を行っている。着工は1958年3月、竣工は1959年3月である。

国立西洋美術館は、陸屋根、正方形の平面形状、らせん状の回廊、展示品の増加に伴い渦が大きくなるように増床できる平面計画等、ル・コルビュジエによる「限りなく成長する美術館 (Musée à croissance illimitée)」の構想をよく現した作品として評価されている。ピロティー、屋上庭園、斜路、自然光を利用した照明計画等、ル・コルビュジエに特徴的な設計要素を随所に見せる点でも貴重であり、20世紀を代表する世界的建築家のル・コルビュジエの代表作品として、顕著な普遍的価値を持っている。

2. 遺産の種別

文化遺産のうち、記念工作物

3. 所在地

東京都台東区上野公園7-7

(正面)



(展示室)

